

茅ヶ崎セントラルクリニック 佐藤 アケミ (看護部/正看護師)

功 績 従来から行われてきたペアンを用いた緊急離脱法を変更し、指圧による離脱法を推進することで、患者さんへのリスク低下とペアンを含む器具の管理に関する業務量を軽減させた功績。

推 薦 者 細川 康子

推 薦 理 由 緊急離脱は実施する機会はほとんどない手技ではありますが、災害発生時にはきちんとこなさなければならない手技の1つでもあります。めったに行う機会がないからこそ、簡潔に行える手技に切り替えることは、安全に離脱を行う上で大切なことです。今回、佐藤看護師は学会で得た情報を、吉田副院長と相談しながら現場に取り入れ、患者さんへの侵襲の軽減と、離脱時にペアンを準備する上での時間の削減、看護助手によるペアン管理に費やす時間の削減といった業務改善を行った事は理事長賞推薦に値すると思えました。

内 容

佐藤看護師は、防災委員会のメンバーとして災害発生時の緊急離脱法の見直しに取り組んできました。緊急離脱とは、災害発生時に透析機器に繋がれている患者さんを緊急な状況下で機器から外すための処置です。

これまではペアンを回路に挟み、ペアンの間をカットするという離脱方法を準備していましたが、ペアンをかけることで血管に侵襲があること、穿刺終了後に常時使用しているペアンは片付けられてしまい、別に準備されている離脱用のペアンを必要に応じて取り出さなければならないといった手間と時間を費やすことが問題点と言われていました。

佐藤看護師は6月に神戸で行われた日本透析医学会学術集会に参加し、災害対策のセッションでその問題点と、現在主流となっている離脱方法に関する情報を収集し持ち帰ってきました。帰院後、吉田副院長とも相談し、アドバイスを頂きながらいくつかある選択肢の中から針の端を指で押さえ、針に直接キャップをかけて回路を分断するという方法を選択したことにより、血管への侵襲を軽減でき、ペアンを使用しないで離脱ができるようになりました。

この業務改善により、最大60名ほどの患者さんの離脱を行うケースに、ペアンを準備することなく、患者さんへの侵襲を最低限に抑え離脱を行える準備を整えることができました。